

KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学

広報誌 No.90

特集

家族のつながりに見る
川崎医療短期大学の魅力

- 日本語に関する取り組み
- 平成27年度 第3回公開講座／川崎学園祭
- 海外ボランティア／ダンススポーツ部入賞
- 新任職員紹介／川崎エコプロジェクト／
中庄学区ソフトボール大会優勝／上海からの研究生紹介
- インフォメーション

家族のつな



美観地区にて（撮影：写真部）

特 集

家族のつながりに見る 川崎医療短期大学の魅力



昭和55年3月発行卒業アルバムより転載

川崎医療短期大学には、本学を卒業した親や兄姉を持つ在学生在が数多くいます。親から子へ、兄姉から弟妹へと、本学の魅力が次の世代へと伝えられ、それがきっかけとなって本学へ入学した学生も少なくありません。

今回の特集では、親子や姉妹で同じ道を歩む方々に、本学の魅力や将来の夢について語ってもらいました。



平成27年8月5日撮影



松枝 仁美
Matsueda Hitomi
平成4年3月卒業
第一看護科 第17期生
済生会吉備病院 看護師

親子で 看護師に



松枝 香苗
Matsueda Kanae
岡山県立
岡山東商業高等学校卒業
看護科2年 第42期生

○ご息女が進路を決めたいきさつ、そのときの思い

もともと本人は看護師ではなく、リハビリセラピストを志望していました。高校3年の春に病院を受診した際、主治医に進路相談もしたようです。「就職率を考慮すると看護師がいい」という医師の一言で、看護師を目指すことになりました。うれしい反面、人の命を預かる大変な仕事であるため、我が子を目指すことにはためらいもありました。しかし、進路を決めてからは本人の気持ちに揺らぎがなく、親としてはバックアップしていただけたと考え、今では全力で応援しています。

○ご自身の学生時代の思い出

私の親も看護師であり、なんとなく自分も看護師にという安易な気持ちで飛び込んでしまった看護の道でした。入学後は「本当に自分に合っているのか?」と葛藤する日々でした。当時の担任は登喜 玲子先生で、よく相談に乗っていただきお世話になりました。入学当初はまじめでしたが、途中から羽目を外すこともあり、子どものお手本になるような学生ではありませんでした。しかし、最後まで諦めずに勉強して卒業し、今も現職で働いていることを誇りに思っています。

○ご息女の将来に対する思い

看護師という職業は想像以上に大変な仕事である反面、やりがいもあり、人のために何かできる仕事です。これをしんどいと思えばそれまでですが、思いやりを持って人に接し、自分の行った看護で笑顔になる人がいたとすれば、これほどうれしいことはないと思います。看護師は看護を提供する職業とされていますが、実は患者さんから笑顔をもらい、元気づけられていることが少なくありません。そのような貴重な思いを実感できる素敵な看護師になってもらいたいです。

○本学で学びたいと思った理由

本学看護科の魅力は、県内で最も歴史がある大学の一つであり、周囲からの信頼も厚いところです。また、自宅が本学に近く、以前から体調が悪いときには川崎医科大学附属病院にお世話になっていました。看護師になることを決めたとき、通院していた病院で働きたいと思い、実習先が附属病院である本学を選びました。自宅から近いため、時間に余裕ができ、予習・復習をする時間もたくさんとれると思ったからです。

○学生生活について

入学した頃は、思っていたよりも学生生活が大変で、3年間やっていけるのか、不安な気持ちになっていました。しかし、実際に病院実習を経験して、看護師になりたいという気持ちが強くなりました。困ったときや悩んだときに頼れる友人もでき、熱心な先生方とも出会え、とても充実した日々が過ごせています。勉強を一生懸命頑張り、友人との時間も大切にしていきたいです。また、今しかできないことも数多く経験し、悔いの残らない学生生活を送りたいと思います。

○ご家族の働く姿と今の学びとのつながり

母が看護師として働く姿は、子どもの頃から見てきました。看護師になることを決めてからは、私にとって母は目標であり、憧れの存在になりました。大学で分からないことや上手いかわないことがあったとき、相談に乗ってくれたり、アドバイスをしてくれたりするととても頼れる存在です。将来、母のような看護師になるために、たくさんの知識や技術を身につけられるよう、一生懸命勉強していきたいと思っています。

○ご息女が進路を決めたいきさつ、そのときの思い

進路について悩んでいたのも、本人の適性も考慮し、資格の取れる医療系への進学を勧めましたが、最終的な判断は子ども自身に任せました。薬剤師、臨床検査技師が最終候補に残りましたが、両親の影響(?)もあり臨床検査技師を選択したようです。子どもが3人いますが、そのうち1人が臨床検査技師を目指してくれたことは、素直にうれしかったです。

○ご自身の学生時代の思い出

授業は朝から夕方まで空きコマもなく、学内・学外実習も多く、大変忙しい3年間でした。そして、今では考えられないことに、当時の臨床検査科には恋愛禁止という厳しい規則がありました。それでも毎日楽しく大学に通いました。尊敬できる先生や先輩方、今でもいろいろ力を貸してくれる多くの同級生との出会いは、大切な宝物となっています。部活動ではソフトボール部に所属し、週末にはグラウンドでボールを追いつけていたのが良い気分転換になりました。

○ご息女の将来に対する思い

娘は幼稚園から短大まで、そして臨床検査技師になればすべてが私の後輩となります。冗談で「そこまで父親をリスペクトせんでいいのに」と言っています。先輩技師として見たとき、臨床検査技師としての適性はあると思いますが、さらに成長するためには川崎医療短期大学の建学の理念である「人をつくる 体をつくる 深い専門的知識・技能を身につける」を常に心に刻み、すべての人を尊敬し、感謝する気持ちを持ち続ける人になってもらいたいと思います。

○本学で学びたいと思った理由

将来臨床検査技師になろうと決めたとき、父から川崎医療短期大学の話を聞いていたので進学先として1番に考えた大学が本学でした。三年制で、時間割も課題も先生方の指導も厳しいと聞いていましたが、学内実習や附属病院での長期間にわたる病院実習、そして建学の理念が魅力的だと思いました。大学まで父と同じという点は不本意でしたが(笑)、やはり一番身近に話を聞くことができる人がいたことが本学で学びたいと思うようになった大きな要因の一つです。

○学生生活について

父に聞いていた通り、毎日が予習、レポート、課題の嵐で、慌ただしい日々を送っています。四年制大学と比べると遊ぶ時間も少なく、大変だと思うことがよくありますが、同じ目標を持つ友人たちと毎日切磋琢磨しながら楽しく過ごしています。これから病院実習が始まりさらに忙しくなると思いますが、頑張るときは頑張る、遊ぶときは遊ぶというメリハリをつけて、充実した学生生活を送りたいと思っています。

○ご家族の働く姿と今の学びとのつながり

まだ臨床検査技師という職業について詳しく理解できていなかった頃、父が休みの日や夜中に電話で呼び出されているのが不思議でたまりませんでした。当時は説明されても分からなかったのですが、臨床検査の知識を身につけるたびに、その時の父の行動の理由が分かるようになってきました。臨床検査には人の命が関わっており、技師は時間を問わず対応することが求められる重要な仕事であることが父の姿を見て実感できるので、今しっかりと学ぶことが大切なんだと思っています。



木村 泰治

Kimura Yasuharu

昭和58年3月卒業

臨床検査科 第8期生

岡山済生会総合病院

中央検査科 技師長

親子で 臨床検査技師に



木村 千紘

Kimura Chihiro

岡山県立

岡山芳泉高等学校卒業

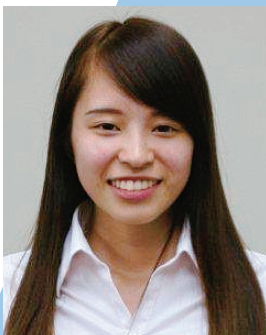
臨床検査科2年 第42期生



田淵 隆
Tabuchi Takashi

昭和62年3月卒業
放射線技術科 第8期生
倉敷中央病院
医療技術部門 医療技術本部長

親子で 診療放射線技師に



田淵 菜々
Tabuchi Nana

岡山県立
倉敷古城池高等学校卒業
放射線技術科 1年 第39期生

○ご息女が進路を決めたいきさつ、そのときの思い

当時私は単身赴任中で、十分な話し合いを家族で持ったわけではありませんでした。本人が高校での進路指導のときに、ぼんやり描いていた将来像をしゃべってしまったことが、将来を真剣に考え始めるきっかけになったのではないかと想像します。

親子の会話はかなりあると思っているので、妻の看護師という職よりも、私の職業のほうが楽に見えたのかもしれませんが。妻も私も、勧めたわけでも反対したわけでもなく、本人が決めることに対して異論はないという感じでした。

○ご自身の学生時代の思い出

決して優等生ではなかった私にとって、学生時代は数多くの人との出会いがあった忘れられない大切な時間でした。学問に没頭していたわけではないということになりますが、それまでの生活圏から大学という大きなコミュニティに参加した以上、節度を持った羽目の外し方を身につけたり、より多くの大人と関わることを経験してきました。それが、その後の社会人生活にもプラスになっているのではないかと「個人的に」思っています。

○ご息女の将来に対する思い

うちは女の子ですし、この業界を背負って立つような偉人になれなんて全く思いませんが、我が子に対する評価は、「あの子は思いやりも深く、本当優しいね～」であってほしいです。私たちの仕事は、これからずっと日々勉強を続けなければならないし、娘も最新の検査装置に悪戦苦闘することでしょう。しかし、いつも「人を相手にしている仕事」であることを忘れないでほしいです。それさえできていれば、それ以上何も言うことはありません。

○本学で学びたいと思った理由

父から、「川崎医療短期大学は他の大学に比べて、長期間にわたって実習期間が確保されており、就職してからとても役に立つ」と聞いたからです。この大学なら、授業では体験できないことや学べないことを、実習期間を大切に使うことで、一つひとつ確実に身につけていけると思いました。また、実際に診療放射線技師として現場で働いたことのある先生方が多く、一人ひとりの学生に対しても熱心に向き合ってくれると聞いたことも大きな理由の一つです。

○学生生活について

多くの人に信頼され、また正確な判断ができる診療放射線技師になるため、専門的な知識や技術を習得できるように3年間頑張っていきたいです。そして、勉強だけでなく、スポーツにも打ち込み、目標を共にする友人・先輩方との交流も含め、楽しく充実した学校生活を送りたいと思っています。

○ご家族の働く姿と今の学びとのつながり

私が小学4年生のとき、父は職場を東京・茨城に移したため、父と離れた暮らしがスタートしました。私は、家族と離れてまで父がやりたかった仕事とはどんな仕事なのだろうと幼い頃感じていました。現在は岡山に戻ってきましたが、1日の仕事を終えた父は、家に帰ってからも、PCで教材のMRI画像などを見て勉強しています。私にはその画像を見ても、どこの部分なのか、どこに病気があるのかなどは全く分かりません。しかし、診療放射線技師という仕事に誇りを持ち、熱心に打ち込んでいる父の姿を見て、私も父のようになりたいと思っています。

○妹様が進路を決めたいきさつ、そのときの思い

家族、友人、高校の先生と何度も話し合った結果、介護福祉士という職業がやりがいのある仕事で自分に向いていると思い、進路を決めたと聞いています。私も介護福祉士として働いていますが、この仕事は忍耐と優しさの要る大変な仕事だということを身を持って知っているため、応援したい気持ちとやめたほうがいいのではという複雑な思いがありました。しかし、妹が進路を決めてからは、出来る限りの協力をしようと思いました。

私自身、利用者さんの気持ちや意図が分からずに、悩んだり落ち込んだりすることもありましたが、同僚や先輩の助けを得て乗り越えてきましたので、妹も大丈夫だと信じることができました。

○ご自身の学生時代の思い出

学園祭では学科で模擬店を出したり、球技大会では運動が得意な人も苦手な人も全員と一緒に競技したりと、学科の友人全員で大変なことも楽しみながら行事に参加しました。

勉強はついていくのに一生懸命でしたが、実習や試験が終わると先生方や友人と食事や旅行に行き、交流を深めていきました。同じ目標を持った仲間なので悩みを共有でき、助け合ったり励まし合ったりして、学生生活を有意義に過ごすことができたと思います。

○妹様の将来に対する思い

今年の4月から、妹は介護福祉士として働き始めました。初めのうちは「自分には無理」と自信をなくしていたようでした。今では、悩んだり落ち込んだりしたときには、川崎医療短期大学の先生や友達、家族に相談したり経験談を聞いたりすることで気持ちを切り替えているように思います。これからもいくつもの壁を乗り越えて、様々な経験をしながら、介護福祉士を続けてほしいと思います。また、何歳になっても勉強をして、様々な資格を取ってほしいです。

○本学で学びたいと思った理由

姉が在学中、短大生活についてよく話をしてくれました。学生同士のつながり、先生との関係、実習の出来事などを聞き、楽しそうだと感じるとともに介護に興味を持ち始めました。その後、高校で介護のボランティアをしたり、介護について調べたりして、介護福祉士として働きたいと思うようになりました。そして、オープンキャンパスに何度か参加したとき、先生や先輩が明るく声を掛けてくださり、体験実習も楽しく終えることができたので、ここで学びたいと思いました。

○学生生活について

入学当初は友達ができるのか、授業についていけるのか心配でした。しかし、授業や実習を通してクラスメイトと打ち解け、すぐに仲良くなりました。授業では、先生が基本から分かりやすくゆっくりと教えてくださるため、安心して受けることができました。テスト前には先生に苦手なところを聞きに行ったり、学生同士で教え合ったりして、皆で乗り越えることができました。実習では思うように動けない自分が嫌になることもありましたが、先生に励ましてもらい、友達と支え合いながら終えることができました。クラスメイトや先生方と過ごした時間は、私にとって大切な思い出となりました。

○ご家族の働く姿と今の学びとのつながり

姉が「利用者さんの想いを聞くのは大変」「利用者さんの想いや行動を受け入れてあげたいけれど…」と話していることがありました。そのときは「そうなんだ」としか思えませんでした。コミュニケーションの授業で「傾聴と受容」について学んだとき、姉が言っていたのはこのことだったのかと思いました。利用者さんの話を傾聴し、希望や悩み、思い出など、利用者さんのありのままの気持ちを聞き出し受け入れられるようになりたいと感じています。



野口 美咲

Noguchi Misaki

平成23年3月卒業

介護福祉科 第9期生

特別養護老人ホームみゆき園

ユニットリーダー

姉妹で 介護福祉士に



野口 優奈

Noguchi Yuuna

平成27年3月卒業

医療介護福祉科 第1期生

特別養護老人ホーム

グリーンビレッジ瀬戸内

介護福祉士



廣瀬 奈津美
Hirose Natsumi

平成20年3月卒業
医療保育科 第1期生
児童発達支援事業所
withひろば早島 保育士

姉妹で 保育士に



梅本 華菜子
Umemoto Kanako

愛媛県立
八幡浜高等学校卒業
医療保育科2年 第10期生

○妹様が進路を決めたいきさつ、そのときの思い

妹から保育士を目指したいという相談を受けた際、まず勧めたのが川崎医療短期大学でした。ここでは、保育士・幼稚園教諭に必要な知識を学べるだけでなく、医療保育・発達障害児保育のカリキュラムが設けられているため、より専門的な技術を身につけることができると思ったためです。現場に出たときに、大学での学びがしっかりとした土台・基礎として生きてくると感じています。

○ご自身の学生時代の思い出

授業と実習で忙しく、決してゆとりのある3年間ではありませんでした。一方で先生方や同期の仲間とのつながりは深かったと思います。初めて経験した実習では、不安や緊張に押しつぶされそうになることもありましたが、周りの仲間と励まし合いながら、毎朝実習先へ向かったことを今でも覚えています。そんな仲間とは現在でも親交があり、3年間を通して生涯の友達を作ることができました。

○妹様の将来に対する思い

相手を思いやり、大切にできる人になってもらいたいと思います。人との関わりの中で、「どうしたのかな?」「この人はどう感じているんだろう?」と少し立ち止まって考え、相手の気持ちに気づき、相手に寄り添う姿勢を大事にできる保育士を目指してほしいと思います。持ち前の明るさと笑顔で、周りの人たちをほっこりさせられる素敵な保育士になってほしいです。

○本学で学びたいと思った理由

保育士を目指したいと思い、どの大学で学ぶべきかを悩んでいました。そのとき、姉から川崎医療短期大学に進学することを強く勧められました。本学の医療保育科は他の大学では学べない医療や発達障害について学ぶことができると、また、それらが現在の保育には欠かせないものだとすることを姉から教えてもらいました。保育士に必要な基礎知識だけでなく、医療や発達障害などの専門的な知識と技術を身につけることが、自分自身の強みにもなると思い、本学を志望しました。

○学生生活について

保育所での実習が無事に終わり、現在は施設実習に向けた準備をしています。2年生になり、授業やテストだけでなく、実習に向けた学習などで毎日がとても早く過ぎていくように感じます。そのような日々が続いていても、大学で友人と会い何気ない会話をすることが、私にとって何よりの楽しみになっています。現在、バレーボールサークルにも所属しており、他の学科の人たちとも交流ができ、とても楽しい学生生活を送っています。

○ご家族の働く姿と今の学びとのつながり

姉とのつながりを感じたのは、実習での不安や悩みを相談し、助言を受けたときでした。同じ大学で、同じ経験をしている姉だからこそ相談することができました。とても励まされています。また、先生方から「お姉さんは元気?」「今どうしてる?」などと声を掛けてもらおうと、姉も本学に通っていたのだと、改めて姉とのつながりを感じます。

私の好きな○○

vol. 4

今回は、看護科と医療介護福祉科の学生の作品から、最優秀賞1点、優秀賞3点を選びました。偶然にも、いずれも癒やしをテーマにしたような作品になりました。忙しい勉学の合間に、ほっとするひとときを求めているのでしょうか。優しさを感じる作品だと思います。



最優秀賞 医療介護福祉科2年 栗田 未悠

私の好きな散歩

私は散歩が好きです。車や自転車で移動することが多いのですが、近所に行くときや時間があるときは必ず歩くようにしています。

春には、桜やタンポポなどの花の香りに包まれて、新鮮な空気を思い切り吸います。夏には、太陽の鋭い日差しの中、涼しげな風や青々とした草木に安らぎます。秋になると、色鮮やかな紅葉を楽しみ、金木犀の香りに物寂しさを覚えます。冬になり、風の強い日には体を突き刺すような寒さを感じ、雪の降る日には子どもたちの歓声を聞くことができます。歩いてしか行けない細道を進むことで、探検しているようなわくわく感を味わうこともできます。新しいものを発見したり、変化に気づいたときの充足感もたまりません。

近くへ移動するときや天気がよい日など、散歩をかねて出でみると、新しい何かに気付くことがあるかもしれません。体をリフレッシュさせ、頭を柔軟にさせるためにも、皆さん、散歩に出掛けませんか。

川崎医療短期大学



優秀賞 看護科2年 山岡 美咲

私の好きな海

私は地元の海が好きだ。小さい頃から泳いだりカニやヤドカリを採ったりして遊んだ思い出の場所であるからだ。それに、波の音が気持ちを落ち着かせてくれ、時間がゆっくりと流れているように感じるからだ。私にとって海は心が休まる場所である。

私の地元は兵庫県明石市で、家の近くに海がある。祖母の家も近い。自分がいっぱいになってしんどいときや1人になりたいとき、私はその海に行く。大きな岩に座って何も考えずに過ごしたり、浜辺を歩いたりする。すると、波の音に心がほぐれていき、打ち寄せる波に悩み事が流されていく。悩みが思っていたよりも小さかったことがわかり、頑張ろうと思える。そして、祖母の家に顔を出し、少しゆっくりしてから帰るのだ。

日常を充実したものにするために、心が休まる場所は大事である。自分をリセットし、再び前を向いて歩くことができる場所があることは素敵だと思う。

川崎医療短期大学



優秀賞 看護科2年 寺井 里枝

私の好きな一人旅

私は電車に乗って一人旅をすることが好きだ。電車に乗ること自体が好きで、日常からしばし解放されたような気分になるからだ。

今年の夏は2回電車で旅をした。1回目は大阪へ、2回目は友人のいる小倉へ行った。電車には様々な人が乗り降りする。電車の中では少女が歌い、車掌さんが巡回し、老人が私の隣に座り話しかけたりするなど、出来事も様々だ。旅で出会った人とふれあい話をすることは、看護師を目指す私にとって大切なことだと思う。多くの患者さんに声をかけ、状態や症状を聞き、時には相談にのるなど、コミュニケーションが欠かせない職業であるからだ。そして、もう一つの楽しみは車窓から見える風景である。海や山、田んぼ、都会など景色もまた様々で、数時間の移動のうちに自然や街の様子を満喫できる。

このように、リラックスでき、見知らぬ人とコミュニケーションを図ることもできる一人旅は、私の元気の源である。

川崎医療短期大学



優秀賞 医療介護福祉科2年 渡邊 未奈美

私の好きな読書

私は読書が好きです。子どもの頃から本に親しんでいて、中学・高校のときはよく図書館に行って借りていました。好きな作家は東野圭吾や有川浩です。登場人物の描き方がうまいため、共感を覚えたり、心をわくわくさせてくれるからです。図書館の雰囲気も大好きで、リラックスできたり、気分転換ができたりします。

少しつらいことがあったときには、お気に入りの本を開くようにしています。本の世界に入り込んで、非日常の気分を味わっているうちに、主人公も頑張っているのだから私も頑張ってみようという前向きな気持ちになります。

最近はスマートフォンやパソコンでも簡単に本が購入できたり、電子書籍でも本が読める時代になりました。しかし、図書館や書店に行けば本との思いがけない出会いがあります。紙の本にはやはり愛着がわくもので、私はこうして読書を楽しんでいます。

川崎医療短期大学

平成27年度 川崎医療短期大学 第3回公開講座

身の回りにいる

入場
無料

目にみえない微生物の不思議

平成27年 10月10日(土)
13:30~15:00

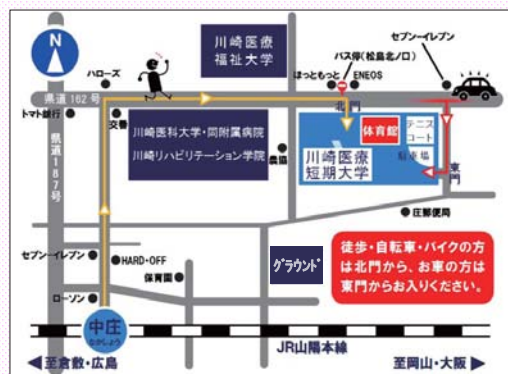


- 講師 黒川幸徳(本学 臨床検査科 准教授)
- 会場 川崎医療短期大学 体育館102教室
- 対象 一般、高校生

私たちの身の回りには、目にみえないたくさんの微生物が潜んでいます。これらの微生物の私たちの生活へのかかわりを、良い面、悪い面の両方から紹介していきます。

申し込み・問い合わせ先
〒701-0194 岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学 公開講座係
TEL: 086-464-1032
FAX: 086-463-4339
E-mail: koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

【駐車場】有 当日無料
【JR 山陽本線】
中庄駅下車
徒歩15~20分
駅前タクシー利用 5分



第41回 川崎学園祭

2015年10月10日(土) 11日(日)



統一テーマ

「All Four One」

川崎医科大学
川崎医科大学附属病院
川崎医科大学附属川崎病院
川崎医療福祉大学
倉敷市松島 577 番地

川崎医療短期大学
川崎医科大学附属高等学校
専門学校
川崎リハビリテーション学院
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/festival/>

第41回 川崎学園祭のご案内

統一テーマ

All Four One



制作コンセプト

今年の川崎学園祭のテーマは、第41回ということで、「All Four One」。このポスターは、「一人一人は小さな種だけど、みんなが団結すれば大きなハート(想い)になる」という意味をこめました。キラキラや花は、今年の学園祭に向けられた学園祭に携わる人全員の「想い」や「楽しさ」を表現しています。「All Four One」のテーマのとおり、みんなが一人一人のために、また、一人一人がみんなのために思いやり、協力し合って作り上げる学園祭になることを願っています。

海外ボランティア

～カンボジアの孤児院、SCDを訪問して～



医療保育科
大橋 茉莉
中野 美咲

私たちは平成26年12月17日から23日まで、英語教師のカレン・アン・スタフォード先生と一緒にカンボジアへ行きました。SCDという孤児院を訪ねるためです。最初の2日間で、プノンベン市内観光をするともに、孤児院に持参するための飲料や食料を買いました。トゥクトゥクという乗り物で移動をすると、カンボジアの風を感じることができ気持ちがよかったです。一方、市場では大勢の子どもが働いており、路上にはゴミがあふれ、バイクの4人乗りを見かけるなど、衝撃を受けることも多かったです。

3日目に、現地で買った飲食類と日本で用意した洋服、タオル、石鹸などを持って孤児院を訪問しました。孤児院には5～20歳までの約50人の子どもたちがいました。彼らはとても優しく、人懐こいため、すぐに仲良くなることができました。その日はビンゴゲームやダンスパーティーをして、夜遅くまで楽しい時間を過ごしました。子どもたちからカンボジアのダンスを教わり、日本で有名な曲をかけて一緒に踊ったりしま



した。翌日は海へ行ったり、バスケットボールをしたりしました。ほとんどの子と英語でやりとりをし、うまく伝わらないときはジェスチャーをしたり絵を描いて伝えました。言葉の壁があっても、伝えたいという気持ちがあれば必ず伝わると強く感じました。

実際にカンボジアに行き、自分たちの目

で見て、肌で感じたことを通して、人と人が直接触れ合うこと、相手のことを思いやること、皆で協力することなどが本当の豊かさや幸せなのではないかと考えさせられました。キラキラ輝く笑顔いっぱいの子どもたちを見て、たくさんのパワーをもらいました。



川崎学園ダンススポーツ部入賞報告

平成27年5月17日、岡山大学において、第79回中四国舞踏選手権大会が開催されました。その新人戦で、加藤 桃子さん（本学看護科1年）・村井 琢人さん（川崎医療福祉大学臨床工学科1年）ペアがラテン部門優勝を、さらに阿部 日奈子さん（川崎医療福祉大学保健看護学科1年）を加えた3人で総合優勝を収めました。これは川崎学園ダンススポーツ部発足以来初の快挙でした。

川崎学園のダンススポーツ部は、昨年度で発足10周年を迎えた新しい組織です。車いすダンス（車いす利用者とそうでない人が一緒に踊るダンス）から始まり、現在は、競技会への参加と地域・施設交流会の実施という2本柱で活動を行っています。ダンススポーツは男女がペアになって踊るため、ペア練習がとても大切です。学生はそれぞれの学科で時間割や実習の日程が異なるため、学科の異なる学生同士のペアは練習がうまくできない期間もありましたが、苦勞しながら快挙を成し遂げてくれました。これからも私たちは、明日の「踊る医療技術者」を目指して前進します。

（医療保育科 川崎学園ダンススポーツ部顧問 秋政 邦江）

新任職員紹介

6月から本学の仲間になった職員の方を紹介します。



■ 石原 律子 教務課 副主任

6月1日付で、大学事務局経理課から異動してまいりました。学校部門の業務は初めてですが、教職員と学生の皆さんのお役に立つことができるよう努力いたしますので、ご指導のほどお願いいたします。



■ 長江 真理子 庶務課 事務職員

豊かな自然に囲まれた母校で、四季折々の変化を感じながら働くことに喜びを感じています。学生の皆さんに充実した大学生活を過ごしてもらえよう、微力ではありますが全力で努めていきたいと思っています。遠慮なく気軽に声を掛けてください。

中庄学区 春季ソフトボール大会優勝

平成 27 年 5 月 17 日に行われた中庄学区春季ソフトボール大会において、本学のソフトボール部が優勝しました。昨年の春、秋に続き三連覇を達成しました。14 点差をつけて勝利した試合もあり、どの試合も優勢に進めることができました。試合に出ている学生と、サポートをする学生とが協力し、支え合い、とても盛り上がった楽しい大会になりました。

3 年生は次の秋季大会を最後に引退します。これからも練習や試合の一つひとつに精一杯取り組み、楽しみながら頑張っていきたいと思います。

(臨床検査科3年 ソフトボール部部长 山本 拓弥)



地球温暖化対策
ワーキング
グループだより



川崎エコ
プロジェクト

心がけ

私たちの生活のなかで、環境問題やエコについての考えが身近になってきたのは最近のことですが、それが完全に生活にとけ込んでいるかというと、そうとは言い切れないと思います。一方、環境問題の解決に向けて、企業や行政機関でも問題意識を持ち、それぞれが様々な取り組みを行っているのも事実です。

こうしたなか、ゴミの不法投棄や水質汚染、大気汚染などの環境問題が社会問題化しているのが現状です。

このような問題に対して、私たち一人ひとりが個人のレベルで解決に向けて取り組んでいくには限界があり、容易なことではありません。しかし、現状を少しでも改善していくためには、私たち自身が日々の生活のなかで、無理のないリサイクルをしたり無駄遣いを減らすなど、ちょっとした「心がけ」を続けることが大切です。そうすることで環境にやさしく生きていけるのではないのでしょうか。

(医療保育科 笹川 拓也)

上海からニーハオ！！

6月4日に上海健康医学院から来日された2人は、看護科の研究生として日本の看護教育全般について学ばれます。また、日本語や日本の文化などについても勉強されます。来年3月まで皆さんと一緒に勉強に励まれますので、どうぞよろしくをお願いします。



◆ おう れい ◆
(Wang Li)



◆ りゅう えい ◆
(Liu Rui)

主要行事（10月～12月）

10月	7日	臨床検査科2年臨床実習開始式
	9日	全学科午後休講
	10日	学園祭（～11）
	//	10月オープンキャンパス（～11）
	//	第3回公開講座
	14日	医療保育科3年病児保育実習（～29）
	17日	看護科2年解剖学見学実習
	20日	看護科3年精神看護学施設見学実習
	//	臨床検査科2年臨床（臨地）実習（～2/10）
	22日	看護科3年精神看護学施設見学実習
11月	25日	AO入試後期（学生は校内立入禁止）
	30日	AO入試後期合格発表
	31日	看護科継灯式
12月	9日	医療介護福祉科1年介護実習Ⅱ（～11/28）
	12日	看護科2年実習開始式
	24日	看護科2年基礎看護学実習Ⅱ（～12/18）
	28日	放射線技術科卒業研究発表会
	29日	推薦入試（学生は校内立入禁止）
12月	30日	医療保育科2年保育実習Ⅱ・Ⅲ（保育所）（～12/11）
	4日	推薦入試合格発表
	12日	臨床検査科研究発表会



川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(90号)

2015年9月発行

編集発行：広報誌編集委員会

河邊 聡子（医療介護福祉科・委員長）
見尾 久美恵（一般教養・副委員長）
重田 崇之（一般教養）
沖田 聖枝（看護科）
迎 由利子（臨床検査科）
天野 貴司（放射線技術科）
重松 孝治（医療保育科）
桑田 俊明（庶務課）
松井 美奈（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話：086-464-1032（庶務課）

Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。

平成28年度 入試日程

（AO入試前期は終了しました）

試験区分 学科等	AO入試後期	推薦入試・公募	一般入試前期	一般入試後期		B
				A（センター試験利用）		
看護科	小論文 面接 調査書 エントリーシート	小テスト 「国語総合」 「数学Ⅰ」 「コミュニケーション英語Ⅰ」 から1科目選択 面接 調査書	必須 「国語総合・現代文B」 選択 「数学Ⅰ・数学A」 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」 「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 から1科目	必須 「国語」 選択 「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「物理」 「化学」 「生物」から1科目 ※「基礎を付した科目」は2科目を併せて1科目として扱う。	小論文・面接・調査書	
臨床検査科			（看護科に同じ）			
放射線技術科			必須 「数学Ⅰ・数学A」 選択 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」 「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 から1科目			
医療介護福祉科			選択 「国語総合・現代文B」 「数学Ⅰ・数学A」 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」 から1科目			
医療保育科	（看護科に同じ）	（看護科に同じ）	（看護科に同じ）	（看護科に同じ）		（看護科に同じ）
出願資格	大学入学資格を有する者。オープンキャンパス等に参加し、希望する学科の教育方針に関する3つのポリシー、大学生活等を充分理解した上で出願すること。 評定平均及び現役・過年度卒・社会人を問わない。 専願 ※医療介護福祉科への出願者は、オープンキャンパス開催日に医療介護福祉科で行われるAO入試セミナーを、試験日まで、必ず受講すること。	大学入学資格を有する者で出身学校長が推薦する者。 評定平均及び現役・過年度卒を問わない。 専願・併願の選択出願	大学入学資格を有する者。 ※医療介護福祉科を第二希望とする場合、「国語総合・現代文B」「数学Ⅰ・数学A」「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」の内、高得点の科目を利用する。 ※理科の出題範囲は「基礎を付した科目」と「基礎を付さない科目」を併せた範囲とする。	大学入学資格を有する者。 A：大学入試センター試験利用 B：本学独自問題（小論文） （A・Bのいずれかの選択出願） ※大学入試センター試験受験科目を、それぞれ100点満点に換算し、2科目以上受験している場合は高得点の科目を利用する。 ※「英語」にはリスニングの成績を含める。		
出書類	入学願書 エントリーシート 調査書 その他	入学願書 推薦書 調査書 その他	入学願書 調査書 その他	入学願書 調査書 その他		
入学金	25,000					
試験日	10/25（日）	11/29（日）	1/31（日）	3/17（木）		
出願期間	10/1（木）～10/16（金） 【消印有効】	11/2（月）～11/20（金） 【消印有効】	1/5（火）～1/23（土） 【消印有効】	2/23（火）～3/9（水） 【消印有効】		
合格発表	10/30（金） 午前9時	12/4（金） 午前9時	2/5（金） 午前9時	3/19（土） 午前9時		

編集後記

今年も記録的な猛暑が続き、熱中症で搬送される人や台風による被害のニュースをよく目にしました。改めて自然環境のことを考えながら、今号の編集作業を行いました。

今回の特集では、親から子へ、姉から妹へ、本学の魅力と使命が次の世代へと継承されることをテーマに、それぞれへのインタビュー記事を紹介しています。本学も40年を超える歴史を持つようになりましたがそれは単なる時間の積み重ねではありません。過去の先生方による唯一無二の教育を作り出そうとする熱意の積み重ねの歴史であり、そこで学んだ卒業生が医療・福祉職の職業人として研鑽を積み重ねた歴史です。私たちは今回の特集をまとめながら、在学生たちへより良い教育を提供することに取り組み続けなければならないと改めて考えました。それがさらに次の世代へとつながる本学の歴史と伝統になっていくのだと信じて今日も教壇に立ちたいと思います。

最後になりましたが、この暑い季節にご多用中にもかかわらず、記事執筆をお引き受けいただいた皆様に深くお礼申し上げます。

（重松 孝治）